

学校名 帯広市立啓北小学校（平成 29・30 年度指定校）

研究領域 国語科・道徳科・特別支援教育

自立と共生をめざす確かな学びの追究
～確かな学力と豊かな心を培うための授業づくり～

I 研究主題設定の理由

本校では、学校教育目標を「心豊かにたくましく生きる子供を育てる」とし、「心身ともに健康な子供」・「社会性を身に付け助け合う子供」・「主体的に学習できる子供」の育成を目指している。また、目指す学校像「凡事継続 信頼と絆で結びつく啓北小」のもと、教育活動の重点を「学校大好き笑顔あふれる啓北小」とし、知・徳・体のバランスを意識した教育活動の展開を行っている。

「学校大好き笑顔あふれる啓北小」という教育活動の重点には、子供同士が良いところを見つけ、学び合いながら成長してほしいという願いがこめられており、互いを認め合い共によりよく生活していく子供の姿が示されている。また、「知・徳・体のバランスを意識した教育活動の展開」を通して、子供自身が自ら学び、自立する力を身に付けることを目指している。

そこで、「知・徳・体のバランスを意識した教育活動から、自立できる学びを身に付け、学び合い成長し合い共によりよく生活していく」という視点から、研究主題を「自立と共生をめざす確かな学びの追究」と設定した。

知・徳・体のバランスのとれた教育と質の高い授業の継続を通して、自立した確かな学びのできる子供、学び合い、共によりよく生活できる子供の育成を目指し、2 年次研究初年度である今年度の研究を展開していきたい。

II 研究仮説

1 授業スタイルの定着とつながりを実感できる授業

授業スタイルを定着させ、つながりを実感できる授業にすることで、確かな学力を身に付け、豊かな心で学び合う子供を育てることができるのではないかと仮説を立てた。

III 研究計画と研究内容

1 研究計画（2 年計画）

平成 30 年度（1 年次）

国語科・道徳・特別支援教育

- ・ 授業スタイルの確立
- ・ つながりが実感できる授業の構築
- ・ 質の高い授業を支える日常の実践

平成 31 年度（2 年次）

国語科・道徳・特別支援教育

- ・ 1 年次の成果と課題を検証・修正
- ・ 授業スタイルの定着
- ・ つながりを実感できる授業の徹底
- ・ 質の高い授業を支える日常の実践

2 研究内容

(1) 研究内容 I：授業スタイルの定着

「つかむ」「ふかめる」「つながる」という学習過程の中で、課題の解決に向けて、子供が主体的に取り組んでいく学習スタイルを目指す。また、思考の広がりや深まりが分かる厳選された板書との一体化を図る。

(2) 研究内容 II：つながりが実感できる授業の構築

子供が自分の考えをもち、それを発表したり、友だちの考えを聞いたりしながら、考えを深めたり広げたりすることが、思考力・判断力・表現力等を育む上で大きな効果がある。この活動に子供は意欲をもって、主体的に取り組まなければならない。

そのため、1 時間の学習において、まずは仲間同士が「つながっている」ことを実感できる場を設定することが重要である。更に、本時の学びが、次時の学習や他教科・

他領域で、あるいは生活の場面に、「つながっている」(＝生かしている)と実感できるような授業づくりを目指していく。

ア 国語科

- 視点①：単元と一単位時間において、「つかむ」「ふかめる」「つながる」段階を設定
- 視点②：パフォーマンス評価とルーブリックの活用
- 視点③：対話の質が向上する学び

イ 道徳科

- 視点①：主題追求型の授業づくり
- 視点②：仲間、他教科・他領域、生活へのつながりが実感できる学び
- 視点③：見取りの観点を明確にした評価

ウ 特別支援教育

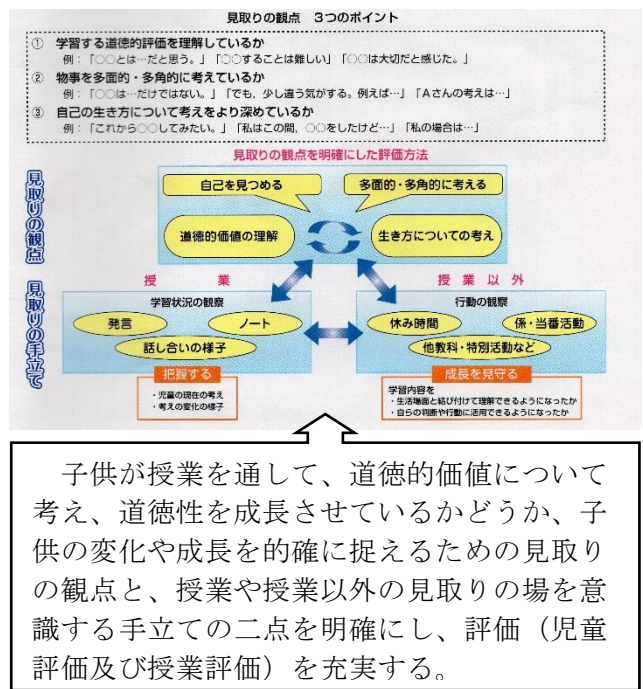
- 視点①：子供一人一人の教育的課題をつかみ、個別の指導計画に基づいた段階的指導内容の設定
- 視点②：指導と評価を一体化させ、仲間と、他教科・他領域、生活へのつながりが実感できる学びや活動の提供

IV 研究実践の概要

【ア 国語科 視点①より】

【イ 道徳科 視点③より】

	学習活動	言語活動に関する指導上の留意点
つかむ (1)	①学習の見直しをもつ。全文を読みおぼやかな内容と段落の構成をつかむ。 「めだか」を読んで全体の内容をつかみ、段落ごとの要点をまとめ、読書カードを作成することを教える。 ②新出漢字と語句の読みかた、語義、語の語源をはたきをつかむ。	■全文を読み内容を確かめながら、要点をまとめることや、読書カード作成までの学習の見直しを確かめさせる。 ■文章全体が四つの大段落から構成され、さらに小段落に分けられることをつかむ。 ■「こゝして」(指示語)「では」「でも」「一方」「しかし」(接続語)、漢字・語句などの言語事項を指導する。
ふかめる (3)	③めだかの体と生活の様子をつかみ、「めだかができからどのようにして身を守るか」という筆者の問いの文章をつかむ。(大段落(一)～(二)) ④めだかができからどのようにして身を守るかについて、小段落ごとに中心文とくわしく説明する文に分けて、要点をまとめる。(大段落(二)) ⑤めだかの「自然のきびしきにたえる体の仕組み」について、小段落ごとに中心文とくわしく説明する文に分けて、要点をまとめる。	■「めだかができからどのようにして身を守るか」という筆者の問いの文章をつかむ。 ■めだかの体と生活の様子をつかみ、「めだかができからどのようにして身を守るか」という筆者の問いの文章をつかむ。 ■めだかができからどのようにして身を守るかについて、小段落ごとに中心文とくわしく説明する文に分けて、要点をまとめる。 ■めだかの「自然のきびしきにたえる体の仕組み」について、小段落ごとに中心文とくわしく説明する文に分けて、要点をまとめる。
つながる (3)	⑥⑦全体の文章構成を確かめ、「森のスケーター」やまねを読んで各段落の要点を読書カードにまとめる。 ⑧説明文カードをもちにやまねについての説明をする。	■全文を読み内容を確かめながら、要点をまとめることや、読書カード作成までの学習の見直しを確かめさせる。 ■文章全体が四つの大段落から構成され、さらに小段落に分けられることをつかむ。 ■「こゝして」(指示語)「では」「でも」「一方」「しかし」(接続語)、漢字・語句などの言語事項を指導する。



子供と指導者が、単元、1 単位時間の授業の全体像を見通せるようにするとともに、パフォーマンス課題をイメージした教師モデルを作成し、授業を展開することで主体的に学ぶ子供を育成する。

V 研究の成果と課題

これまで積み重ねてきた研修を土台とし、質の高い日常の授業づくりと研究内容に沿った授業実践を進めてきた。学ぶ意欲や学び方、確かな学力等、学力向上に係る成長や、自身を見つめ直し、行動できる豊かな心の定着につながってきている。また、新学習指導要領の全面実施に向けて、教師の授業力の向上・充実にもつながっている。

今年度の実践を踏まえて、国語・道徳・特別支援教育の各部会での反省点を次年度の課題にするとともに、先進校の視察から得たカリキュラム・マネジメントの実践事例を本校の研究の参考とし、研修の充実を図っていきたい。